

2021年4月1日から2022年3月31日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。



認定NPO法人発足に伴う変更事項

一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

- 上野 太美夫 様
- 上村 由佳理 様
- 米倉 盛貴 様
- 上野 健太郎 様
- 伊地知 修 様
- 黒崎 沙安 様
- 井本 剛司 様
- 今村 真理 様
- 福川 みずほ 様
- 福川 勉功 様
- 石川 篤子 様
- 河野 嘉文 様
- 岩松 洋一 様
- 国分酒造株式会社 様
- 宝納酒店(若松隆男) 様
- 鹿児島南ロータリークラブ様
- 鹿児島教区仏教婦人会連盟 様



■一般寄付

本法人の活動意義をご理解頂き、額の多寡は関係なくご寄附を賜りますようお願い致します。現金收受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。

■個人賛助会員：年会費.....12,000円

■法人賛助会員：年会費.....120,000円

■募金箱

募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。

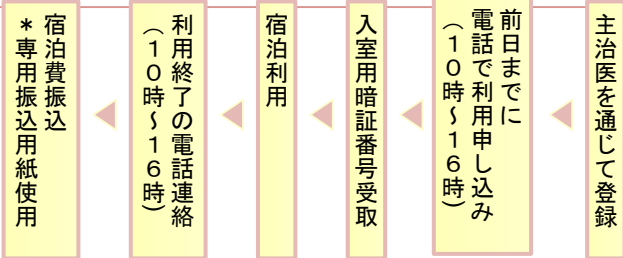
本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。

入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。ボランティアの方々によって維持管理して頂いております。ご協力を。

ご利用の流れ



* (注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学病院 小児診療センター小児科内
電話：099-275-5354

認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

活動 離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援することを目的に設立されました。また、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減するための事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

お約束 皆様からお預かりした個人情報
・会員のご案内の発送以外の目的で使用することはありません。
・ご本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。

会員の方々と事務局を結ぶ.....

こねっと通信

2022spring.VOL.23

■ファミリーハウス

■健康相談会

■子ども救急箱

■その他



Save the Children
私達は離島・へき地の
難病児を支援します



すべての子どもに適切な小児医療と
快適な闘病生活を

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)
子ども医療ネットワーク





こねっと通信



こども医療ネットワーク

●理事長通信●

●新任理事長の挨拶 (新任理事長 岡本康裕)

令和4年3月1日をもってNPO法人の理事長に就任しました。岡本康裕です。

当法人は前理事長の河野先生(現霧島医療センター院長)中心となって立ち上げられた法人で、その後、認定NPO法人となりました。へき地、離島に住むこども達が、高度医療を必要とする難病にかかったとき、市内に住むこども達と同じように医療にアクセスできることをサポートすることが目的です。通院のための旅費や宿泊費を供給くださっている方、ファミリーハウスを管理してくれているボランティアの方、当法人に対し寄付をくださったという方、多くの方の善意に支えられています。

すでに当法人の一定のスタイルは決まっております、新しい体制においても基本的にはこの流れを踏襲したいと思いません。無理なく持続可能な形で継続するとともに、ひとつずつ新しいステップを踏んでいきたいと考えています。これまでの10年の歩みを引き継ぎ、発展させるべく、新しい理事の皆様とともに、頑張ってくださいと思います。引き続きご支援をお願い申し上げます。

●退任の挨拶 (旧理事長 河野嘉文)

花散らしの風や雨の中で令和4年度がスタートしました。当法人も2月の総会を経て岡本理事長始め新体制が発足し、変更登記も完了して新たなスタートラインに立っております。コロナ禍が3年目になり長期戦の様相を呈しておりますが、法人活動は心機一転新しい展開を期待したいと思っております。

理事長在任期間に過分のご厚志を賜り厚く御礼申し上げます。次期認定更新までは副理事長として新体制を支えることに徹したいと存じます。社会情勢は変化していきますが、病気の子ども達の応援員としての活動に対し、引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

●支援金を送付した登録患者(保護者様)さまから●

患者正会員に登録されている方の中から、条件に当てはまる方を対象に支援金を送付しています。令和3年度の支援金を送付した登録患者の保護者様からメッセージをいただきました。

・ 離島からの移動・日頃の生活を支えていただき感謝しております

「いつもご支援をありがとうございます。支援金やファミリーハウスのお陰で通院を減らしたりせず欠航で宿泊が延びても安心して通うことができています。多くの方々のサポート・医療の進歩への努力に感謝するばかりです。」

「息子はまだ体も心も元気がありませんがたくさんの方々に支えられ、できることがたくさんあることに気づき、一歩が出せることを祈り支えていきたいと思います。心からお礼を申し上げます。」

「娘に暖かいご支援をありがとうございます。元気に成長してくれていることに感謝しつつ、今後の発達のための資金として大切に活用させていただきます。」

●マスクをご寄付していただきました●

令和3年7月、インターマイン様から、たくさんの抗ウイルス酸化銅不織布マスクをいただきました。ありがとうございました。

ファミリーハウスや、病棟、外来で必要な方にご利用いただきました。



こども救急箱

《免疫不全症》

—早期の兆候発見が重要—

こども医療ネットワーク会員
西川 拓朗
(鹿児島大学病院小児医療センター)

2021年5月4日
南日本新聞掲載

お子さんが保育園に通い始めたときに、ひっきりなしにかぜを引くことは、よく経験されることだと思います。そして、うちの子は他の子に比べ、熱がよく出るのではないかと、身体が弱いのではないかと心配になる保護者の方もいます。

私たちの身体は、病原体や毒素が体内に侵入して感染症を起こしたときに、それらを排除するための機能を備えています。そして、感染症が治った後は、同じ病原体の感染にかかるとはならず、かかっても軽症で済んだりする仕組みがあります。それを「免疫」と呼びます。免疫は生まれつき完成されているわけではなく、成長や感染を繰り返すことで成熟していきます。そのため、乳幼児期が最もかぜを引きやすく、症状も長引くことがあります。

乳幼児期の「かぜをよく引く」「は、ほとんどが問題ありませんが、それに加え、重症化する」「発育不良を伴う」「毒性の



こども救急箱

《子どもが頭を打ったら》 —活気や機嫌の確認を—

こども医療ネットワーク会員
加藤 嘉一
(鹿児島県立大島病院)

2021年12月3日
南日本新聞掲載

子どもが頭を打って心配された経験は、どなたにもあるのではないのでしょうか。日常的に生じやすいとはいえ、いざその場面になると慌ててしまいますよね。

まずは意識状態、活気や機嫌、打撲した場所、強さの程度の確認が必要です。よびかけても反応がなく目をつむっていたり、反応して目を開けてもすぐに寝る、言葉が発しない、手足を動かさない場合は意識状態が悪いので、直ちに病院を受診しましょう。

頭を打った1〜2時間後でも元気がない状態が続く場合や、複数回もどす状況が続く場合は受診が必要で、へこみがある場合は頭蓋骨骨折の可能性もあります。受傷時に強い力が働く・高エネルギー外傷の場合は、頭蓋内出血、脳損傷をきたす場合がありますので、注意が必要です。

2歳未満では約90cm以上、2歳以上では約150cm以上からの高所からの落下、高速物体との衝突、交通事故などがこれにあたります。



認定特定非営利活動法人
(認定NPO法人)
こども医療ネットワーク
ホームページは
随時更新中です
<https://kodomoiryo.jp>

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結びコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。下記住所にお送り頂くか、E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp まで

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学病院 小児診療センター小児科内 「こねっと通信」係

※こども救急箱の記事は2006年4月から南日本新聞に掲載されています